

2022年4月1日 第25号
障害者の社会参加、自立・就労支援



〒302-0027 取手市本郷5-4-21
TEL/FAX 0297-73-8361
(平日 10:00~15:00)

npo_ikiru@rainbow.plala.or.jp
http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/
https://www.facebook.com/npoikiru

窓 開けて



ご あ い さ つ

理事長 染野 和成

日中の暖かさが気持ち良く感じられる今日この頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日頃から当団体の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。1年間のご報告の会報と一言ご挨拶を申し上げます。

この1年間も一昨年から引き続き新型コロナウイルスに振り回され、今現在も感染第6波の脅威にさらされ続け我慢の日々が続いております。

当団体も企画されていた各イベントもことごとく中止のうきめにあい、皆さんと一緒にあって楽しめたイベント等は秋に催された、「バスハイク」のみ。

イベント内容はこの会報中に記されていますが、早く皆さんと一堂に会し、笑っておしゃべりができる日々を迎えたいと思います。

当団体も間もなく結成20年を迎えようとしています。この会は皆さん一人一人のお力添え、市・市議会・社会福祉協議会のご協力、各関係諸団体との協働による繋がりが歩みを進めているといっても過言ではありません。

この新しくむかえた年度も皆さんと一緒にがんばりたいと思います。

末筆ながら皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

ご存知ですか？

健康保険で在宅マッサージが受けられます！

お問い合わせ、ご相談などお気軽にご連絡ください。

オリエンタル治療院

〒301-0041 茨城県龍ヶ崎市若柴町 2183-9 TEL 0297-65-0985 FAX 0297-65-3323

バスハイク

2021年10月24日

NPO法人活きるでは年に2回当事者メンバー、家族、ボランティアが普段なかなか行けないところへ遠足します。「電車でGO」と「バスハイク」です。ここ一年半にわたる新型コロナ蔓延で「電車でGO」は2年連続中止にしました。しかし、「バスハイク」は狭い空間移動ですが気心知れた仲間通しなので決行しました。

今年は2021年4月にリニューアルオープンされた茨城フラワーパークに行ってきました。グランピングエリアも新設されたようです。



当日、目覚めたら、ここ最近にない

快晴で絶好の行楽日和でした。コロナ禍で悶々とした日が続いていましたが今日は良いことがありそうです。9時半に交流センターに集合です。車いすユーザーが5名、ボランティアが12名の総勢17名です。移動車両は、メンバーが利用している障害者福祉センターあけぼのが福祉車両を貸してくれます。宮脇車と合わせて3台にゆったりと分乗しました。

往路は6号線を北上するルートを選びましたが、この行楽日和で何度も渋滞に遭遇し、予定より大幅な遅れで11時半に到着。しかも、駐車場に入る前には大行列です。メインの駐車場はすでに満車でしたが福祉車両だったので、止められそうなところに停めてよいとのことで隙間を見つけて何とか3台を駐車しました。

レストランが混む前に、先に昼食にしようと決めパークの中腹にある「ローズファームハウス」というレストランに直行。すでに、大行列です。レストランは広くて食べる場所は問題なかったですが料理を注文するまで30分近くかかったのでしょうか?? 料理は見た目に凝った地産地消の材料(たぶん)のおしゃれなものでした。

(次のページに)

ちょっと高いけど・・・テラス席で景色を眺めて、おしゃべりを楽しみながらのんびりとランチを楽しみました。

腹ごしらえを終えて各自自由にパーク散策を始めました。とても広い丘陵地帯なので通路は坂道ばかりです。NPO 法人活きるのメンバーの車いすは全員電動なので大きな問題はないですが、手動または介助の車いすの移動は急傾斜もあり、かなり困難です。サイコーの行楽日和の中、みんなのんびりと見学しました。この時期はバラとダリアです。バラが半分を占めていましたがつぼみがまだ多く3分咲きといったところで満開の景色は見られなかったのが残念です。1時間半ほどかけて一巡り。

約束の3時に入り口付近に集合し、パークを背景に記念の集合写真をパチリ。いい思い出ができました。

帰路は別ルートでつくば経由で帰りましたが、思ったより時間がかかりました。取手到着は4時半になりました。コロナ禍のなか、バスハイクを決行してとてもよかったと思いました。みんな心地よい疲れととてもいい気分転換になったようです。来年もこのような機会を大切にしたいと思いました。



市制50周年記念



先日、取手市市制施行50周年の記念式典が開催されました。

そこで、NPO 法人活きるの活動が認められ感謝状が授与されました。

移送サービス講習会

2021年11月21・22日

取手市では取手社協さんが年に2回、移送サービス運転者講習会を開催されています。

11月21, 22日の二日間にわたって秋の講習会が開催されました。

平時の場合、募集人員は24名ですが、昨年からのコロナ禍で密を避けるために12名に制限して募集しました。結果、今までの最少人数の4人の申し込みがあり、悩んだ挙句、開催を決断しました。

講習日一日目は快晴の行楽日和です。そんな中の参加に感謝します。その日は、すべて座学で内容の厳しい1日になります。NPO法人活きるの宮脇はその中の「移動サービス概論」「移動サービスの運転に必要な知識と心構え」「利用者理解」「セダン車講習」の4コマを受け持ちました。特に利用者理解はこの活動に必要な知識なので力が入ってしまいます。

講習日二日目は主に実技に関する講習になります。午前中は利用者さんと接するときの注意と介助技術そして車いすの取り扱いについての勉強です。そして、午後は福祉車両の取り扱いについて座学と体験です。そして午前中に習ったことを講師のチェックの中で実際に体験していただき、必要に応じて問題点が指摘されます。

最後に終了式の中で総括と活動紹介、修了証を授与して長い2日間を終えました。

移送サービス運行実績

対象月	実利用者数(人)	実運転者数(人)	延べ送迎回数(回)	送迎料金(円)
令和3年1月	144	19	664	586,100
2月	157	19	705	622,900
3月	181	19	902	810,400
4月	174	18	850	762,700
5月	186	18	797	723,100
6月	202	17	1083	974,100
7月	188	18	942	876,500
8月	182	18	857	749,900
9月	164	19	785	696,600
10月	183	18	862	821,100
11月	186	17	887	795,800
12月	185	18	883	859,400
合計			10217	9,278,600

チャレンジの広場

チャレンジの広場は2014年4月1日に、スポーツを通じて交流を図ることを目的に設立しました。設立以前は、活きの会員向けにリハビリスポーツという名前で行っていましたが、競技のマンネリ化や活きの会員以外の方にも参加していただきたいという前向きの思いから、チャレンジの広場設立となりました。おかげ様で多くの方に参加していただいています。また、チャ



レンジの広場を立ち上げたことにより、障害福祉課、社会福祉協議会、とりで障がい者協同支援ネットワークから後援をいただいています。チャレンジの広場では、競技を考える時に心がけていることがあります。障がいの有無、障がいの程度に関わらず誰もが楽しめるイベントになるようにしています。今まで行った競技は、



ボッチャ、車椅子スラローム、風船バレー、卓球バレーなどです。皆さん笑顔があふれ、参加者同士の交流が生まれています。

一昨年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止しておりましたが、昨年10月と12月は、感染対策をとりながら、会員限定で行いました。

今後もしばらくは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会員限定で行いますが、早くコロナが終息し、多くの方に楽しみながら参加していただけることを願っています。

「あいサポート運動」が 令和4年度からスタートします

『2006年国際連合において障害者権利条約が採択され、「全ての障がい者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有」を目指すと言われた。そして、わが国でも、条約に基づく「障害者差別解消法」が2016年4月になってようやく施行された。この法律に盛り込まれた障がい者への「合理的配慮」という言葉は、19世紀のアメリカに遡るといえる。しかし言葉だけでは何も変わらない。現実の行動のみが、理念に命を吹き込む。そのための実践活動が重要であり、広く真の共生社会についての理解が共有されなければならない。鳥取県では2009年11月28日から、国の法制定に先立って障害者権利条約の理念を実現するため、「障がいを知り、共に生きる」をモットーに、一人ひとりが学び行動する「あいサポート運動」がスタートした。地域で共に生きる住民が多様な障がいの特性を理解し、身近にできる手助けや配慮を実践する「あいサポーター」となり、これを支える企業や団体なども参画する草の根運動である。』（著書「鳥取力」より引用）

この理念に賛同し、2020年4月からの準備期間を経て、いよいよ2022年度から鳥取県との協定締結後に「あいサポート運動」がスタートします。スタートするにあたって障害福祉課職員、社会福祉協議会職員、とりで障害者協働支援ネットワーク役員が参加し、1月21日、2月1日にあいサポーター研修（勉強会）を開催いたしました。2月18日には、講師をつとめるメッセンジャー研修（デモ）を開催し、今後市民の皆さんへの研修をよりスムーズに進めていくために意見交換を行いました。茨城県内では初となるこの取り組みによって、多くの市民がこの運動に参加し、企業や団体、学校等も一緒になって運動を盛り上げ、共に暮らしやすい地域社会を皆さんと一緒に創っていきたいと思います。



茨城県卓球バレー愛好会

勝山博行

2019年4月の茨城国体「いきいき茨城ゆめ大会」のオープン競技に卓球バレーが行われ茨城県内から選手が集まりました。大会後、茨城代表チームは解散することになり、新たに卓球バレーを続けたいという仲間が集まり、取手市を中心として活動する茨城卓球バレー愛好会を2020年に立ち上げました

この団体は、一般の方を受け入れ、卓球バレーの普及をするとともに指導者養成講習会などにプレーヤーとしてかかわっています。現在は新型コロナウイルス対策のため、少人数で感染症対策を取りながら練習していますが、コロナが終息した時には皆さんに練習会にきて体験していただき、卓球バレーの楽しさを知ってもらいたいです。

ちなみに僕の卓球バレーをやっているの感想ですが、多くの知り合い、仲間ができ、自分自身を成長させてくれています。

最後になりましたが、卓球バレー愛好会に協力していただいている方に感謝申し上げます。



看板設置

昨年、お亡くなりになった会員の蛸原千佳子さんから多額の寄付金をいただきました。

せっかくの寄付金を記念に残るものに有効利用しようと話し合った結果、今までなかった看板を作ろうと決め製作したものを今日設置しました。

小さなNPO法人に不似合いな立派な看板をご覧ください。



障害者（児）支援ボランティア講座

3月2日

社会福祉協議会主催のボランティア講座があり、NPO 法人活きるの立場で肢体不自由者の支援について話してきました。

ここ、数年、受講者数が低迷していましたが今回はコロナ禍で12名も応募がありました（1名欠席）。たくさんの方に参加していただくと話し甲斐があり、期待もあります。

前半は宮脇がボランティア活動をするきっかけとボランティアについてを聞いてもらいました。例年は紙資料だけでしたが。今回はパワーポイントの資料も作って、少しでも興味を持ってもらえるよう工夫しました。話している間、皆さんは頷いたり、ジョークに笑ってもらったりですごく熱心に聞いてもらえたと思います。メモを取っている方が多かったのも今回の特徴でした。

この講座に参加された方は当然障害者支援に興味があるはずなので、あいサポート運動について少し熱く語って、サポート研修が始まったら参加するようお願いしました。

後半は肢体不自由者の支援に欠かせない技術指導です。いつもなら、受講者にも体験してもらって技術を覚えてもらうのですが、今回はコロナ感染予防の観点から動画を見てもらって、どの辺がコツか詳しく話したつもりです。でも、体験しないと難しいので、活きるが主催している楽ちん介護にお誘いしました。

実際、受講された方がどれくらい活動参加されるかわかりませんが、少なくとも障害者の実態や期待していることは理解していただいたと思います。



自立支援協議会シンポジウム

2月7日

新型コロナ蔓延のために延び延びになっていたシンポジウムが開催されました。対面で計画していましたが、オミクロン株が暴れだし、オンライン開催となりました。現在の自立支援協議会委員の任期が今年度で終了するので、まずは開催されて次年度に繋げる準備ができて、よかったですと思います。

このシンポジウムの目的は障害者が非常時に宿泊できる施設を市内に整備することです。（地域生活支援拠点事業）

基調講演は我孫子市にある高齢者と障害者が共存するアコモードという特別養護老人ホームの施設長が今のようなスタイルに至るまでのきっかけと経緯、そしてどれだけ利用者に喜ばれるようになったかを話していただきました。

その後、市内の施設や相談員のパネルディスカッションで各事業所の役目と今回のテーマに基づいた感想を話していただきました。どれも、障害者にとって非常に大事なテーマで期待するものでした。このシンポジウムをき



かけに自立支援協議会としては、拠点の面的整備とともにショートステイできる施設を拡充して障害者が安心して地域で暮らせるような環境を作りたいと思いました。

取手市自立支援協議会

2月15日に、ONLINEで今年度最後の自立支援協議会全体会議があり、慣れないZOOM会議の進行を務めました。

自立支援協議会には3つの部会（地域で生活をしていくための部会、日中活動に関する部会、児童に関する部会）がありますが、この2年間、全部会の活動がコロナで制限され、成果を上げることが難しい状況でしたが、今日の報告で、工夫して頑張っただけの結果を残せたと思います。今日で2年任期の委員を終えることとなりますが、全部会が道半ばのため、全員再任となりそうです。改めて、障害者が地域に住み続けられる環境づくりに尽力します。

地域福祉貢献

●市役所

自立支援協議会（会長、部会リーダー） 障害福祉計画（委員） あいサポート運動（講師） 移送サービス運営協議会（委員） 地域助け合い協議体（委員）

●社会福祉協議会

理事会（理事） 各種講習会（講師） 社協広報誌（編集委員） 赤い羽募金（配分委員） 発展・強化計画（委員）

●とりで障害者協働支援ネットワーク（代表、役員、広報）

障害者のための防災訓練、就労講演会、福祉まつり、あいサポート運動など

●講師派遣

移送サービス運転者講習会

◆◆◆◆◆ ありがとう ◆◆◆◆◆

蛸原千佳子さんより50,000円

山田さんより多量の玉ねぎ 売上1万円

運転ボランティアさんより20,000円

移送サービス利用者さんより10,000円



編集後記

新型コロナ2年目の中、思うように行動ができなかったが、1年間を振り返ってみると例年通りのページ数になった。活きるの活動が世間から認知されてきたからなのかと感じている。この広報誌をとおして活きるの活動に賛同していただければ幸いである。

編集担当 鈴木 澄利

2022年 4月 1日発行

発行所 NPO法人 活きる

発行者 染野 和成

編集者 鈴木 澄利

連絡 〒302-0027 取手市本郷5-4-21

TEL/FAX 0297-73-8361

npo_ikiru@rainbow.plala.or.jp

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

<https://www.facebook.com/npoikiru>

活動会員・賛助会員を募集しています

一緒にNPO法人活きるの活動に参加してみませんか
皆様のご参加をお待ちしています。

活動会員 個人・年会費 2,000円

団年・年会費 3,000円

賛助会員 個人・年会費 1口1,000円 1口以上

団体・年会費 1口2,000円 1口以上

（活動・賛助会員の総会議決権はありません）

振込先

・郵便振替 00190-7-778948

・口座名義 「特定非営利活動法人活きる」